

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001B	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションI（ベーシック） English Oral Communication I (Basic)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>文部科学省は以前、「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていけばよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、英検の資格取得やTOEICなどによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。</p> <p>本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。中学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つけなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性がはっきりと見えてくるはず。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。</p>
--------	---

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル時代の英語</li> <li>・英語を使う時の「外向き」姿勢</li> <li>・TOEIC/英検</li> </ul>	学修教育目標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていいます。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。</p>
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分かりにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。</p> <p>[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかり取組むことでTOEIC対策に役立ちます。</p>
--

教科書	参考書・リザーブドブック
English Expression Elementary/ コミュニケーションのための英語表現レッスン：基礎会話力強化編 著者名：David E. Bramley 出版社：松柏社	書名：Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語 著者名：Kathleen Yamane 出版社：ひつじ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検4級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 270点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検4級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Would you help me, please?	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	助けを求める表現／名詞の種類	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	No kidding. I can't believe it.	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	紹介の仕方の表現／現在完了形（1）	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	What are you studying at our university?	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	誘いの表現／受身形（1）	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	Emma-san, welcome to our house.	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第8回 /	相手をほめる表現／付加疑問文	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第9回 /	How have you found our cafeteria?	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第10回 /	驚きの表現／関係代名詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第11回 /	Many students have more interest in fashion.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第12回 /	同意する・同意しない表現／代名詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第13回 /	Oh, that's a women-only car.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第14回 /	相づちの打ち方の表現／複文	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションI（スタンダード） English Oral Communication I (Standard)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>文部科学省は以前、「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていけばよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、英検の資格取得やTOEICなどによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。</p> <p>本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。高等学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性をはっきりと見えてくるはずです。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。</p>
--------	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル時代の英語</li> <li>・英語を使う時の「外向き」姿勢</li> <li>・TOEIC/英検</li> </ul>	学修教育目標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていいます。学生には社会人基礎力で言う、「一步前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。</p>
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分かりにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。</p> <p>[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかり取組むことでTOEIC対策に役立ちます。</p>
--

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：First Time Studying Abroad/ はじめての英会話コミュニケーション：留学編 著者名：Antony J. Parker 行時 潔 長田 順子 出版社：松柏社</p>	<p>書名：Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語 著者名：Kathleen Yamane 出版社：ひつじ書房</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検準2級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 450点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検準2級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	On Cloud Nine	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	シチュエーション 飛行機内では	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	San Francisco, Here I am!	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	シチュエーション 到着後の空港では	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	A Warm Welcome	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	シチュエーション 日常会話+SMS で	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	Up and Down the Hills	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	シチュエーション 日常会話—その2	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	A Little Cold for Summer	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	シチュエーション 日常会話—その3	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	Now I'm an International Student	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	シチュエーション自己紹介では	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	I'd Like to Know a Bit More about You	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	シチュエーション お互いの出身地などを質問し合うには	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ（アドバンス） English Oral Communication I (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	このコースを受講する学生には、英語でのコミュニケーションスキルを向上させ、自信と流暢さを身に付けるよう学びます。						
--------	--	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションスキル</li> <li>・会話</li> </ul>	学修教育目標	実践的な会話練習により、より自然な英会話スキルを身につける。				
-------	--	--------	--------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 第一に会話を聞いて、その内容をとらえる。会話の大要がとらえられたら、テキストの語彙を調べ「基本形」を確認し、使えるよう練習を行う。第二にリスニング、ディクテーションにより会話を自分のものにし、構文を学ぶことによりスピーキングへとつなげていく。</p> <p>[学修上の助言] 最初は会話の細部にとらわれず、聞き取れた単語から全体を推測すること。大要がとらえられるようになったら、「基本形」を覚え、パターンプラクティスにより自分の会話ができるようにすること。</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「Let's Talk 2 Second Edition」と連動。							
-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：Let's Talk 2 Second Edition 著者名：Leo Jones 出版社：Cambridge							
--	--	--	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。						
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。						
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。						
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	企業で働く際に必要な基礎力を身に着ける。					○
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。					○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の意見を持つ。					○
	② 働きかけ力	自分の考えを伝えることができる。					○
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力						
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を発信できる。					○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話で、相手の話す内容が理解できる。					○
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10				40		100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価							40		40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
修得した基礎知識を、現実の場面で基礎力から応用力への技能としての英語力に変えることができる。					修得した基礎知識を、現実の場面で基礎レベルの技能としての英語力に変えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション Lesson1: "Getting started" pp2-3 lessons 1A, 1B pp4-7 言語/文法 時制の復習	●対面授業 授業方法, 使用テキスト, 評価の仕方などの説明と質問に答える。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第2回 /	Lesson2:" Meeting new people" lessons 1A, 1B pp4-7 ロールプレイでの語彙 言語/文法 主語としての動名詞 it+不定詞	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第3回 /	Lesson 3: "" Food, likes/dislikes レストラン: ロールプレイ lessons3A, 3B pp12-15	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第4回 /	Lesson 4: "Weather" lessons 4A, 4B 実条件法	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第5回 /	Lesson 5: "Workplace" lessons 5A, 5B 形容詞	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第6回 /	Lesson 6: "Hobbies/ interests" lessons 6A, 6B 非現実的条件法	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第7回 /	Lesson 7: "Sports : Playing and watching" lessons 7A, 7B 語彙の連結	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。 小テスト対策	90
第8回 /	小テスト Lesson 8: "Transport : Getting Around Town" lessons 8A, 8B 形容詞と比較級	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第9回 /	Lesson 9: " Vacations" lessons 9A, 9B 過去形/現在完了 復習と練習	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第10回 /	Lesson 10: " Gadgets/devices" Lessons 9A, 9B 形式:必要性と提案	●対面授業 既習事項から小テストを行う。 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第11回 /	Lesson 11: " Environment" lessons 11A, 11B 直接的と間接的な質問	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第12回 /	Lesson 12: " The News" lessons 12A, 12B 過去の時間表現	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。	90
第13回 /	Lesson 13: " City Life" lessons 13A, 13B 句動詞	●対面授業 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。	語彙, 基本形を覚え発話練習。 課題（ポートフォリオ）提出準備。	90
第14回 /	Lesson 14: " Entertainment and Art" lessons 14A, 14B 数量詞	●対面授業 課題提出。 リスニング, 基本形の習得, Quiz, 練習問題などテキストに沿って進める。 学期末試験についての説明。	学期末試験対応	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11F002B	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（ベーシック） English Oral Communication II (Basic)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的

オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。  
本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。

キーワード

- ・グローバル時代の英語
- ・英語を使う時の「外向き」姿勢
- ・TOEIC/英検

学修教育目標

今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力と言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分りにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。  
[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかりと取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。

教科書

書名：English Expression Elementary/  
コミュニケーションのための英語表現レッスン：基礎会話力強化編  
著者名：David E. Bramley

参考書・リザーブドブック

書名：Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語  
著者名：Kathleen Yamane  
出版社：ひつじ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検3級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 300点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検3級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Here, I can see no emergency phones.	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	確認の表現/受身形 (2)	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	Students won't be able to learn English.	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	会話を始める表現/ to 不定詞	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	Tell me about Hearn in one word.	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	希望や願いの表現/接続詞	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	Don't ask me about it, either.	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	心配して尋ねる表現/命令文	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	But farmers need this rain badly.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	推量・推測の表現/感嘆文	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	How can they keep studying all day long?	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	会話のつながりの表現 (1) / 感覚動詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	I feel more at home in reading in English.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	会話のつながりの表現 (2) / 動名詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11F002S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（スタンダード） English Oral Communication II (Standard)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。</p> <p>本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。</p>
--------	---

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル時代の英語</li> <li>・英語を使う時の「外向き」姿勢</li> <li>・TOEIC/英検</li> </ul>	学修教育目標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力と言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分りにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。</p> <p>[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。</p>
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかりと取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：First Time Studying Abroad/ はじめての英会話コミュニケーション：留学編 著者名：Antony J. Parker 行時 潔 長田順子</p>	<p>書名：Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語 著者名：Kathleen Yamane 出版社：ひつじ書房</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検2級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 500点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検2級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Getting around La-La Land	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その1	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	You Sure Like Sports!	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	シチュエーション 日常会話—スポーツ	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	At a Restaurant	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	シチュエーション レストランでは	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	I'm Not Feeling Well	対面式によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	シチュエーション 体調をくずしたら	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	Day Trip to San Diego and Tijuana	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その2	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	Let's Hit the Beach!	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その3	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	Buying Gifts	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	シチュエーション ショッピングでは 小テスト	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF11F002A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（アドバンス） English Oral Communication II (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期	
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>								
学修教育目的	春学期で行われた進歩に基づいて進めます。コミュニケーションスキルを向上させるさらなる機会を増やし、この事を通じて、自立的・効果的な英語話者として自信を持って成長出来る事を目指します。							
キーワード	・コミュニケーションスキル ・会話	学修教育目標	実践的な会話練習により、より自然な英会話スキルを身につける。					
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>								
<p>[概要] 第一にテキストを聞いてその内容を推測する。テキストの大意をとらえることができたら、語彙を調べ「基本形」を確認する。第二にディクトグロスによりテキストを再生していく。練習問題を解くことにより会話の確認を行い、スピーキングへとつなげていく。</p> <p>[学修上の助言] ディクトグロスは、リスニングの練習をしながら同時に、文法と語彙も鍛えるトレーニング法である。複数名でディクテーションすることにより、一人では聞き取れなかったところや、文法、構文を確認し、発話へとつなげていくのに有効である。はずかしがらず積極的にお互いの意見を出し合うことが必要である。</p>								
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>								
「Let's Talk 2 Second Edition」と連動。								
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブドブック</b>				
書名：Let's Talk 2 Second Edition 著者名：Leo Jones 出版社：Cambridge								
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。							
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。							
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。							
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	企業で働く際に必要な基礎力を身に着ける。					○	
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。					○	
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性							
	② 働きかけ力							
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。					○	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力							
	② 計画力							
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を発信できる。					○	
	② 傾聴力	英語での日常会話で相手の言っている内容が理解できる。					○	
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性							

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10				40		100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価							40		40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
修得した基礎知識を、現実の場面で基礎力から応用力への技能としての英語力に変えることができる。					修得した基礎知識を、現実の場面で基礎レベルの技能としての英語力に変えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Lesson 15：指定範囲内の春学期の未解決の部分の復習	●対面授業 授業方法、使用テキスト、評価の仕方などの説明と質問に答える。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第2回 /	Lesson 16：学習効果の診断目的のクラステスト テストにより明らかになった潜在的な問題領域(語彙・文法など)に焦点をあてクラス修正とフィードバック	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第3回 /	Lesson 17：“get-to-know” スピーキング活動1:文脈を知るためのロールプレインをペアまたはグループで行う。資料はテキストから決める	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第4回 /	Lesson 18：“making plans” スピーキング活動2:未来形(‘will’ VS ‘be going to’)を使い予定に関するロールプレインをペアまたはグループで行う	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第5回 /	Lesson 19：“going out” 復習とプレゼンテーション 提案・提示・要求に関するプレゼンテーションと練習 飲食店でのロールプレインをペアまたはグループで行う	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第6回 /	Lesson 20：“your life” 現在完了(‘for’, ‘since’)の復習とプレゼンテーションと練習 ペアまたはグループワーク	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第7回 /	Lesson 21：“how often?” 頻度の副詞の復習とプレゼンテーションと練習 日常活動(家庭・職場・買い物など)の会話のペアまたはグループワーク	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 小テスト対策	90
第8回 /	Lesson 22：クラステスト 秋学期の総復習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第9回 /	Lesson 23：総復習 クラステストによる問題領域の復習とプレゼンテーション及び会話の実践	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第10回 /	Lesson 24：“like and likes” like を使用した練習と実践コミュニケーション練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第11回 /	Lesson 26：“It’s time” 時間に関する文章の復習とプレゼンテーションと練習 前置詞・冠詞	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第12回 /	Lesson 27：“apple & apples” 加算名詞、不可算名詞の復習とプレゼンテーションと練習 記述言語の練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第13回 /	Lesson 28：“what do you think?” アドバイスや提案の復習とプレゼンテーションと練習 ペアまたはグループでコミュニケーション練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 課題（ポートフォリオ）提出準備。	90
第14回 /	Lesson 21：“what do you think?” 意見を伝える 賛成と反対 クラスディスカッション	●対面授業 課題提出。 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。 学期末試験についての説明。	学期末試験対応	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F003S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ韓国語（入門） Korean Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	韓国語は日本語と文法構造が大変似ているので日本語を母国語にしている人にとって学びやすい言語の一つである。最初はハングル文字の発声方法から始め韓国語の音や文に慣れる練習を行う。それから簡単な会話のやり取りを覚えることに重点をおいて演習を進めていく。						
	キーワード	ハングル文字の仕組み 音読・訓読 文法	学修教育目標	役に立つ韓国語入門終了後には、ハングル検定5級に合格することを目標としている。			

授業科目の概要及び学修上の助言

韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。							
-------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：美しい韓国語1-1 著者名：安晟喜、元銀栄、黄セラナ 出版社：韓国語教育開発研究院	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	新しい言葉を学習する、ということで自ら積極的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。	◎
	② 計画力	韓国語の仕組み、文字の意味、発音の形態、文法の形成など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	新たな知識の習得に対する姿勢を学ぶことができる。	◎
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40	10				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				20					20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20	10				30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解し基礎会話ができることを望む。					韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	韓国語の仕組みを学ぶ。	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	ハングルの発音を学ぶ。	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	重母音と、重母音を組み合わせさせた単語を覚える。	課題	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	激音と濃音の発音を学ぶ。（1）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	激音と濃音の発音を学ぶ。（2）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	ハングルの読み方・書き方を復習する	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	派生母音Ⅱ 重母音と、子音と重母音を組み合わせさせた単語を覚える。	課題	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	テキスト第6課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120
第9回 /	テキスト第7課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120
第10回 /	テキスト第8課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120
第11回 /	課題を復習する	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第12回 /	テキスト第9課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120
第13回 /	テキスト第10課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120
第14回 /	テキスト第11課を学ぶ	課題	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF22S003A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する韓国語（応用） Korean Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	日本は歴史的にも地理的にも韓国と密接な関係を持っている。これからの21世紀にはあらゆる分野において両国の関係は一層深まっていくと考えられる。この授業では役に立つ韓国語 I に引き続き、文法の基礎をしっかりと身につけながら会話の演習を行い、一番近い国である韓国の文化や言葉を理解することを目指していく。	
	挨拶 自己紹介 作文	役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定4級に合格することを目標としている。

授業科目の概要及び学修上の助言

韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。
-------

教科書

参考書・リザーブブック

書名：美しい韓国語1-1 著者名：安晟喜、元銀栄、黄セレナ 出版社：韓国語教育開発院	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	新しい言葉を学習する、ということから自ら積極的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	新たな知識の習得し会話ができる姿勢を学ぶことができる。	◎
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				30	20				50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
読み書きに支障のないレベルまでに達し簡単な会話のできる韓国語能力検定試験4級水準まで進める。					読み書きがしっかりできて簡単な会話のできるレベルまで進む。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	数詞（1） 韓国語の仕組みを学ぶ	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	テキスト第6課（1）	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	テキスト第6課（2）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	テキスト第7課（1）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	テキスト第7課（1）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	テキスト、復習演習	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	テキスト第7課（2）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	テキスト第8課（1）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第9回 /	テキスト第8課（2）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第10回 /	テキスト第9課（1）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第11回 /	テキスト、復習演習	講義・応用演習（面接授業）	予習：60分、復習：60分	120
第12回 /	テキスト第9課（2）	課題	予習：60分、復習：60分	120
第13回 /	テキスト第10課	課題	予習：60分、復習：60分	120
第14回 /	テキスト第11課	課題	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F004S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることができるようになる。	
	キーワード 発音 文法 会話	学修教育目標 「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話をできるようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし
----

教科書

参考書・リザーブブック

書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	中国語の基礎力を養成する。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。	◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / /	第1回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音	面接授業 口頭で発音の説明と練習をする	発音と挨拶用語を復習する	中国について の紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20
第2回 / /	第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第3回 / /	第一課 名詞文の表現と練習	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題を（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第4回 / /	第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第5回 / /	第二課 疑問詞疑問文の表現と練習	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題を（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 / /	筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）①	面接授業 第1課と第2課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第7回 / /	第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第8回 / /	第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題を（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第9回 / /	第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 10 回 /	第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 11 回 /	筆記テスト②（第三課～第四課）（30 分間） 第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現	面接授業 第 3 課と第 4 課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する	単語と本文を予習復習する	テスト 30 読む書く 30 説明解釈 30
第 12 回 /	第五課 並列の表現 存在場所を表す表現 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現	面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 6) 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 13 回 /	第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 14 回 /	第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF22S004A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する中国語（応用） Chinese Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>							
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。						
キーワード	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。				
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>							
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること							
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>							
なし							
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブブック</b>			
書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	中国語の基礎力を養成する。					◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。						
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。						
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。						
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。						
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。					○
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。					○
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。					◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。					○
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第7課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	第2回 /	第7課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をする		
第3回 /	第8課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	第4回 /	第8課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第8課の練習問題をする		
第5回 /	筆記試験① 内容範囲：第7課と第8課 口頭試験①	面接授業 第7課と第8課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 /	第9課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	第7回 /	第9課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をする		
第8回 /	第10課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	第9回 /	第10課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をする		

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第10回 /	筆記試験② 内容範囲：第9課と第10課 第11課 ① 本文を読む ② 本文を説明する	面接授業 第9課と第10課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する	単語と本文を予習復習する	テスト30 読む書く30 説明解釈30
第11回 /	第11課 ③ 文型などの表現を習う ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をやる	面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習30 書く練習30 説明解釈30
第12回 /	第12課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習30 書く練習30 説明解釈30
第13回 /	第12課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習30 書く練習30 説明解釈30
第14回 /	第12課 ⑥練習問題をやる 復習、口頭試験の練習まとめ	面接授業 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第11課と第12課と口頭試験内容を復習する	単語と本文を予習復習する	読む練習30 書く練習30 説明解釈30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF12S005S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	英語 1 English 1	1単位	必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>英語は現代社会では、必須の基礎知識となっている。本講義では、これまでに修得した英語の基礎的な知識を土台にして、誰もがその名を知っているような企業の歴史的背景、経営戦略、企業努力などを平易な英文でまとめたものを読み、基本的な文法や語法、語彙をしっかりと定着させ、英文読解力の養成をはかる。また英語に慣れ親しむために日常的に使われる単語、熟語を習得する。</p>						
----------------------------	--	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	英語は道具である。	学 修 教 育 目 標	<p>(1) 英語という言語に強い関心をもつ。 (2) 日本とは違う文化に関心を持つ。 (3) 英文の構造や文法を理解しながら、英文を読むことができる。 (4) 英語で書かれたか情報の内容や要旨を説明できる。 (5) 英語を通して幅広い視野を身に着けることができる。</p>				
-----------------------	-----------	----------------------------	---	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>必ず予習・復習をおこなうこと。 インターネットを駆使すること。 私語をしない。寝ない</p>							
---	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特になし。</p>							
--------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

<p>書名：English Expression Pre-Intermediate/ コミュニケーションのための英語表現レッスン：自己表現力強化編 著者名：David E. Bramley 出版社：松柏社</p>	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	心豊かな人間になる。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	臨機応変さを身につける。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	視野を広げる。	○
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	道具として使いこなす。	○
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	専門性に誇りをもつ。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。	◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。	◎
	③ 実行力	自主性をもつ。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力	◎
	② 計画力	段取りを考える。	◎
	③ 創造力	新しいものを作る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識	◎
	② 傾聴力	集中力と考える力	◎
	③ 柔軟性	意味の多面性	◎
	④ 状況把握力	臨機応変	◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。	○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		10				5	40
	技能に関する評価		5		5					10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らコミュニケーションの機会をつくる。					コミュニケーションに興味をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション：授業の進め方、予習の仕方等についての説明 Shall we go to America together to learn English?	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	
第2回 /	譲歩の表現／受動態	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第3回 /	I'm a little excited about the orientation!	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第4回 /	相手をほめる表現／現在完了形（1）	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第5回 /	Is a bank card the same as a credit card?	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第6回 /	内容を確認する表現／助動詞	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第7回 /	I'm planning to rent a suitcase from the rental shop.	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第8回 /	推量する表現／関係代名詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第9回 /	The captain of this plane is saying something!	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第10回 /	不満を述べる表現／複文（1）	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第11回 /	This form is an "Immigration form."	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第12回 /	相手を誘う表現／複文（2）	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第13回 /	How do you like the salad bars they have?	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第14回 /	考えや希望を述べる表現／名詞節	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF32F005A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	英語2 English 2	1単位	選択	演習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	英語は現代社会では、必須の基礎知識となっている。本講義では、これまでに修得した英語の基礎的な知識を土台にして、誰もがその名を知っているような企業の歴史的背景、経営戦略、企業努力などを平易な英文でまとめたものを読み、基本的な文法や語法、語彙をしっかりと定着させ、英文読解力の養成をはかる。また英語に慣れ親しむために日常的に使われる単語、熟語を習得する。
--------	---

キーワード	英語は道具である。	学修教育目標	(1) 英語という言語に強い関心をもつ。 (2) 日本とは違う文化に関心を持つ。 (3) 英文の構造や文法を理解しながら、英文を読むことができる。 (4) 英語で書かれた情報の内容や要旨を説明できる。 (5) 英語を通して幅広い視野を身に付けることができる。
-------	-----------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

必ず予習・復習をおこなうこと。 インターネットを駆使すること。 私語をしない。寝ない。
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。
-------

教科書	参考書・リザーブブック
書名：English Expression Pre-Intermediate/ コミュニケーションのための英語表現レッスン：自己表現力強化編 著者名：David E. Bramley	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	心豊かな人間になる。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	臨機応変さを身につける。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	視野を広げる。	○
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	道具として使いこなす。	○
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	専門性に誇りをもつ。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。	◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。	◎
	③ 実行力	自主性をもつ。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力	◎
	② 計画力	段取りを考える。	◎
	③ 創造力	新しいものを作る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識	◎
	② 傾聴力	集中力と考える力	◎
	③ 柔軟性	意味の多面性	◎
	④ 状況把握力	臨機応変	◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。	○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らコミュニケーションの機会をつくる。					コミュニケーションに興味をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション：授業の進め方、予習の仕方等についての説明 How was your first class, Sakura?	対面による演習スタイルの授業	各 Unit を予習のこと。	
第2回 /	受け答えの表現 / to 不定詞 (1)	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第3回 /	Mr. Carpenter said “grace” before eating.	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第4回 /	聞き返しの表現 / 接続詞	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第5回 /	English is a very important foreign language in Korea.	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第6回 /	会話をつなぐ表現 / 現在分詞・動名詞	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第7回 /	I had tacos for the first time in my life!	対面による演習スタイルの授業	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第8回 /	肯定・否定の表現 / 現在完了形 (2)	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第9回 /	It took me more than a week to prepare my presentation.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第10回 /	疑いを述べる表現 / to 不定詞 (2)	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第11回 /	They may sell these potatoes by the pound.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第12回 /	数量の表現 / 命令文	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第13回 /	I've long wanted to visit Disneyland in America.	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第14回 /	驚きの表現 / 再帰代名詞	コロナ感染症拡大防止対策として、オンデマンドによる授業動画配信とレポート提出を基本として授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF13S006S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	外書講読 English Reading	1単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では英文を通じて、ビジネスおよび日常生活に関わる異文化理解及び英語読解力の習得を行なう。グローバル化の時代を迎えた現代人にとって積極的に国際社会へ参加し、活躍を希望するあるいは世界の第一線で今日大きな役割を果たしている日本人ビジネスパーソンになることを意識して、英文読解力の養成を目的とする。						
--------	--	--	--	--	--	--	--

キーワード	経済学的英文精読	学修教育目標	この演習ではボーダーレス時代に対応できる幅広い国際理解及び実用的な知識の蓄積と実践的な英語運用能力の発展を目指すことを学習目標とする。				
-------	----------	--------	---	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

予習・復習は必須です。							
-------------	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。							
-------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：Econo Sense 著者名：Paul Stapleton 出版社：センテージラーニング	なし						
--	----	--	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	心豊かな人間になる。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	臨機応変さを身につける。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	視野を広げる。	◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	道具として使いこなす。	○
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	専門性に誇りをもつ。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。	◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。	◎
	③ 実行力	自主性をもつ。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力	◎
	② 計画力	段取りを考える。	○
	③ 創造力	新しいものを作る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識	◎
	② 傾聴力	集中力と考える力	◎
	③ 柔軟性	意味の多面性	◎
	④ 状況把握力	臨機応変	○
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。	○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		35				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		10				5	40
	技能に関する評価		5		5					10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				10	50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
経済学専門書を精読活用する。					英文による経済専門用語を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション Economics and Human Nature	オリエンテーション・講義 対面授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第2回 /	Day-care Centers in Israel	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第3回 /	Tipping	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第4回 /	Coffee	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第5回 /	Convenience Stores	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第6回 /	Luxury Products	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第7回 /	Women and Men's Prices	対面による演習スタイルの授業	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第8回 /	Cheap Cigarettes and used Cars in Japan	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第9回 /	Christmas Music and the Peacock's Tail	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第10回 /	Mineral Water	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第11回 /	Nothing Is for Free	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第12回 /	Location Matters	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第13回 /	Unexpected Answers	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第14回 /	Cheating	コロナ感染症拡大防止対策として、 オンデマンドによる授業動画配信 とレポート提出を基本として授業を 展開する。	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF21S007B	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばI（ベーシック） Japanese Language I (Basic)	2単位	選択必修	演習	1年次	春学期	
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N3, N2 の合格も目標とする。				
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>								
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。								
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブブック</b>				
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。						◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。							
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。						◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。							
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。						○
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲						◎
	② 働きかけ力							
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力							
	② 計画力	社会団体への加入計画						○
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識						◎
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第10回 /	敬語	対面授業 尊敬語、謙譲語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のためにも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21S007S	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばI（スタンダード） Japanese Language I (Standard)	2単位	選択必修	演習	1年次	春学期
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>							
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。						
	キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2 の合格も目標とする。			
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>							
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。							
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>							
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。							
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブブック</b>			
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N2 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。					◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。						
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。					◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。						
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。					○
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲					◎
	② 働きかけ力						
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力						
	② 計画力	社会団体への加入計画					○
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力						
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識					◎
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第10回 /	敬語	対面授業 尊敬語、謙譲語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のため考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取り戻すよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF21S007A	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばI（アドバンス） Japanese Language I (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期	
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2, N1 の合格も目標とする。				
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>								
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。								
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブブック</b>				
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。						◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。							
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。						◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。							
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。						○
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲						◎
	② 働きかけ力							
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力							
	② 計画力	社会団体への加入計画						○
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識						◎
	⑤ 規律性							
4. 倫理観	⑥ ストレスコントロール力	その団体のルール、慣習の理解						◎
	① 倫理性							○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第10回 /	敬語	対面授業 尊敬語、謙譲語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のためにも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F008B	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばⅡ（ベーシック） Japanese Language II (Basic)	2単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。						
	キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N3、N2 の合格も目標とする。			

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。							
---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				なし			
--	--	--	--	----	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意文作成	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F008S	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばⅡ（スタンダード） Japanese Language II (Standard)	2単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。	
	正しい日本語、理解能力、表現能力	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。
---------------------------------

教科書

参考書・リザーブブック

書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N2 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2		2	9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意作文	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF21F008A	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばⅡ（アドバンス） Japanese Language II (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期	
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。					
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>								
学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。								
<b>教科書</b>				<b>参考書・リザーブブック</b>				
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				なし				
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	本学の建学の精神を確実に理解する。						◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。							
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。						◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。							
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	日本経済の知識を習得する。						○
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲						◎
	② 働きかけ力							
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力							
	② 計画力	社会団体への加入計画						○
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力							
	② 傾聴力							
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識						◎
4. 倫理観	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意作文	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第6回 /	本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH11S009S	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	スポーツ方法学 I Sports Method Study I	1単位	必修	実習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>スポーツといえば、とにかく身体を動かし汗をいっぱい流せばよいと考えている人が多いのではないかと思います。確かに、身体を動かすことが基本になるが、その場さえ楽しければそれでよいといった楽しみ方はスポーツではなく、どちらかというと「遊び」と考えるであろう。 本授業においては、スポーツそのものが持ち合わせている特性やルールを正しく理解し正しく活動することを目的とする。また、スポーツを通して培った内容を日常生活においても実践していくことを目的とする。</p>	
	キーワード	<p>スポーツ 方法学 健康</p>

学修教育目標

スポーツの特性やルールを正しく理解し、自らが積極的に体を動かし活動する中で、個々のレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すことができる。また、すばらしい人間関係を構築し、生涯を通して真摯にスポーツを楽しみ、スポーツで培った内容を日常生活で実践していく能力や態度を養うことができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

現代社会における健康の課題を明らかにし、スポーツの果たす健康への効果を理解し、健康科学に関する基礎的な知識を身に付け、社会生活において実践していきます。また、スポーツ活動を実践していく中で、健康のための適切な身体活動量を維持するとともに、キャリアスキルとしてのコミュニケーションも促進していきます。  
事前学習として、授業で扱うスポーツのルールを学んでおく。また、基本的なスキルについてもインターネットの動画などを参考に学んでおく。積極的なスポーツ活動を行うにあたり  
普段の生活から運動量を確保しておく。  
事後学習として、授業で実践したスポーツスキルの定着のための復習を行う。  
事前・事後学習共に、講義時間と同程度の時間を要する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

健康と福祉について、及び、スポーツと健康についての関連性を予備知識として身につけていることが望ましい。

教科書

参考書・リザーブドブック

なし

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	自らが主体となり、ユーザビリティの高いスポーツを企画・実践する。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	現代社会における生活習慣病のリスクと福祉負担の増大を理解し、健康課題に対してのスポーツの果たす役割を理解する。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	スポーツ教室、スポーツ企画の運営・経営の基礎的な知識を身に付ける。	△
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	スポーツ企画をITで発信する為の手法について理解・実践する。	△
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	プレゼンターとしての自覚、意思を明確に持つ。	◎
	② 働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。	○
	③ 実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代社会における健康の課題を明らかにする。	○
	② 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。	△
	③ 創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。	△
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。	○
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。	△
	⑤ 規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20							20
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		20			10				30
	チームワークに関する評価		10			15				25
	関心・意欲に関する評価					15				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自己や仲間の挑戦する課題を設定し、その課題達成に向けて立案した計画を実行・修正できる。					人間のスポーツ行動を運動学的見地で分析を行い、演習を通して未解決の問題について探求する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは、授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項、整列・体操、ゴルフの特性	講義 オンラインによる課題研究	ゴルフの基礎知識を学修しておく	30
第2回 /	ゴルフ 正しいスイングの習得 グリップの握り方、スタンスの取り方、スイング動作の説明（振り出し、テイクバック、ミート、フォロースルー）、振り子運動の説明	講義・実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第3回 /	7番アイアンのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第4回 /	7番アイアンのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第5回 /	P（ピッチング）のスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第6回 /	9番アイアンのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第7回 /	5番アイアンのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第8回 /	アイアンのスイング総括  スキルテスト	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第9回 /	ドライバーのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第10回 /	ドライバーのスイング習得  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第11回 /	ドライバーのスイング総括  スキルテスト	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第12回 /	仮想コースでプレーする。（コースを想定した、クラブ選択やボールコースと飛距離の確認、特別ルールを設定し、打撃練習場において仮想コースでプレーし、ゴルフのルールやマナーを習得する。）  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30
第13回 /	仮想コース  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30
第14回 /	仮想コース  スキル・意欲・努力・反復	実習 面接授業	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH31F009A	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	スポーツ方法学Ⅱ Sports Method Study Ⅱ	1単位	選 択	実 習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本授業においては、スポーツの特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す事を目的とする。</p>
--------	--

キーワード	スポーツ 方法学 健康	学修教育目標	<p>自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養うことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った内容を正しく日常生活で実践していくことができる。</p>
-------	-------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>現代社会における健康の課題を明らかにし、スポーツの果たす健康への効果を理解する。ルールを変更することで、スポーツの質・量・対象を柔軟に変えられることを理解し、魅力・経済性・効果のあるスポーツを実践指導、企画するプレゼンテーションを IT 発信も考慮し、チーム作業として行う。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>健康と福祉について、及び、スポーツと健康についての関連性を予備知識として身につけていることが望ましい。レクリエーションスポーツについて基礎的な知識を有することが望ましい。 事前学習として、授業で扱うスポーツのルールを学んでおく。また、基本的なスキルについてもインターネットの動画などを参考に学んでおく。積極的なスポーツ活動を行うにあたり 普段の生活から運動量を確保しておく。 事後学習として、授業で実践したスポーツスキルの定着のための復習を行う。 事前・事後学習共に、講義時間と同程度の時間を要する。</p>
---

教科書	参考書・リザーブブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	自らが主体となり、ユーザビリティの高いスポーツを企画・実践する。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	現代社会における生活習慣病のリスクと福祉負担の増大を理解し、健康課題に対してのスポーツの果たす役割を理解する。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	スポーツ教室、スポーツ企画の運営・経営の基礎的な知識を身に付ける。	△
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	スポーツ企画を IT で発信する為の手法について理解・実践する。	△
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	プレゼンターとしての自覚、意思を明確に持つ。	◎
	② 働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。	○
	③ 実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代社会における健康の課題を明らかにする。	○
	② 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。	△
	③ 創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。	△
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。	○
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。	△
	⑤ 規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		10			15				25
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		10			10				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>スポーツ産業におけるイベントビジネスの位置づけと特性、イベントの構造や優れたイベント運営についての理解を深め、市民レベルのイベントを運営する際に必要な知見を学習する。</p>					<p>スポーツの特性やルールを正しく理解するとともに、スポーツイベントが果たす社会的、経済的、文化的役割を理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは、授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項、整列・体操、テニスの特性	講義 オンラインでの課題研究	テニスの基礎知識を学修しておく	30
第2回 /	硬式テニス①ボール感覚を身に付ける②基本技術のマスター、グリップ、スタンス、フットワーク、リズムを意識して、フォアハンド・バックハンドストロークの技術を習得	講義・実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第3回 /	フォアハンド・バックハンドストロークの技術を習得	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第4回 /	フォアハンド・バックハンドストロークの技術を習得	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第5回 /	フォアハンド・バックハンドストロークの技術を習得	実習 面接授業	授業で習得した内容を復習する	30
第6回 /	スキルテスト（2人1組でグラウンドストロークを行い、フォアハンド・バックハンドストロークのスキルをチェックしグループ分けを行う。（A班・B班・C班・D班・E班） スキルテスト	実習 面接授業	実習の課題発見と解決策を考える	30
第7回 /	グループ別スキルアップ、ランクアップテスト 各グループのスキルに合わせた目標を設定しスキルアップを目指す。 また、随時ランクアップテストを実施し、レベルに合ったグループでスキルアップを目指す。	実習 面接授業	実習の課題発見と解決策を考える	30
第8回 /	グループ別スキルアップ、ランクアップテスト	実習 面接授業	実習の課題発見と解決策を考える	30
第9回 /	グループ別スキルアップ、ランクアップテスト	実習 面接授業	実習の課題発見と解決策を考える	30
第10回 /	グループ別スキルアップ、ランクアップテスト	実習 面接授業	実習の課題発見と解決策を考える	30
第11回 /	ダブルゲーム ルール説明、ゲーム スキルテスト	実習 面接授業	テニスのルールを学修しておく	30
第12回 /	ダブルゲーム ルール説明、ゲーム スキルテスト	実習 面接授業	テニスのルールを学修しておく	30
第13回 /	バスケットボール パス、シュート、ゲーム	実習 面接授業	バスケットボールの基礎知識を学修しておく	30
第14回 /	バスケットボール パス、シュート、ゲーム	実習 面接授業	バスケットボールの基礎知識を学修しておく	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH32F010S	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	健康の科学 Science of Health	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>文明の発達と共に人間生活は豊かになり、欲しいものは何でも手に入る便利な世の中となった。そのため我慢することを忘れ、自己の欲求を満たすことのみで終始する場面もしばしば見受けられるようになった。また、情報化社会の出現によるめまぐるしい環境の変化から、知らず知らず「心」にも微妙な変化が起こり、その結果、様々な形でストレスが溜まり健康を害するような問題も新たに加わった。このような問題は、「心の脆弱さ」から起こると指摘されることもある。</p> <p>21世紀、個人の責任や能力が求められる競争社会では、真の「心の強さ」が必要とされる。そのような時代の中で健康の保持増進を考えると、スポーツ（運動）を行うことの重要性を見逃すことはできない。しかし、ただ単にスポーツ（運動）を行うことだけで健康の保持増進を考えるのではなく、スポーツ（運動）を行うことによる心理的効果をも理解したうえで健康の保持増進を考えていく姿勢が必要である。</p> <p>今後、スポーツ（運動）の役割は、科学的に解明した内容をスポーツ選手だけでなく一般の人々が日常生活の中で容易に実践できる環境を整えていくことが重要となるであろう。</p> <p>現在、スポーツの科学は「運動生理学」・「バイオメカニクス」・「スポーツ心理学」等から構成されているが、本講義では「スポーツ心理学」を取り上げ、スポーツメンタルトレーニングの基礎となる考え方を学修し日常生活の様々な場面で活用し実践できる能力を養うことを目的とする。</p>
	<p>「スポーツ心理学」を取り上げ、スポーツメンタルトレーニングの基礎となる考え方を学修し日常生活の様々な場面で活用し実践できる能力を養う。</p>

キーワード	人コミュニケーション	学修教育目標
-------	------------	--------

授業科目の概要及び学修上の助言

BASIC120 から自分きづきを学び、人コミュニケーションを学ぶ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

自然なコミュニケーションの力

教科書

なし

参考書・リザーブドブック

書 名：メンタルトレーニング  
著者名：高妻 容一  
出版社：ベースボール・マガジン社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	大学生としての教養
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	人間力コミュニケーション
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	すべての事柄が心理的要因に起因している。
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	BASIC120
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	運動の原理・スポーツ心理の実践

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備課題を主体的に取り組む事が出来る。
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題点を明確にして取り組むことができる。
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを言葉にして説明しやすくする。
	② 傾聴力	他の人の意見を傾聴することができる。
	③ 柔軟性	ルールを守って生活することができる。
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	40					100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	2	8					20
	技能に関する評価		10	2	8					20
	応用力に関する評価		10	2	8					20
	チームワークに関する評価		10	2	8					20
	関心・意欲に関する評価		10	2	8					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
提出物全提出。					80%以上のレポート提出。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業ガイダンス ・授業を受ける姿勢について ・単位を修得するとは？ ・授業の進め方 ・評価について ・講時の諸注意事項	講義形式 面接授業 パワーポイント 副教材あり	プリテストの準備	90
第2回 /	自己分析 ・プリテスト ・書き込み用紙	講義形式 面接授業 BASIC120 問 書き込み	プリテストの準備	90
第3回 /	自己分析 ・プリテスト ・書き込み用紙  小テスト	講義形式 面接授業 BASIC120 問 解説	日本におけるアスリートの心理的背景の予習	90
第4回 /	メンタルトレーニングとは 心と身体の関係 ・言葉の意味 ・歴史的背景	講義形式 面接授業 自己 BASIC120 によるメンタル	自己 BASIC3 枚の読み込み	90
第5回 /	メンタルトレーニングとは 心と身体の関係 ・言葉の意味 ・歴史的背景	講義形式 面接授業 自己 BASIC120、メンタル解説	自己 BASIC3 枚の読み込み	90
第6回 /	目標設定 ・目標の確認 ・具体的なプランの作成	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P1-P3	本日の復習	90
第7回 /	セルフコントロール ・姿勢 ・呼吸 ・音楽	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P4-P7	本日の復習	90
第8回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P8-P11	本日の復習	90
第9回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P12-P15	本日の復習	90
第10回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P16-P19	本日の復習	90

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P20-P23	本日の復習	90
第12回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P24-P27	本日の復習	90
第13回 /	自己分析 ・ポストテスト  小テスト	講義形式 面接授業 BASIC 副教材 P28-P31	本日の復習	90
第14回 /	まとめ	講義形式 面接授業 総合まとめ		90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH11S011S	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	スポーツ社会学 Sport Sociology	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>ゆとりのある生活を求める現代社会においてスポーツは重要な位置をしめている。2002年韓国・日本で共同開催されたサッカーワールドカップをはじめ2004年アテネで開催されたオリンピック、2008年北京で開催されたオリンピックなど、スポーツが多くの人の関心事となっている今日、楽しむだけに留まらず社会的事実としてスポーツをとらえていくことを目的とする。</p>						
--------	--	--	--	--	--	--	--

キーワード	社会的役割	学修教育目標	<p>日本のスポーツは学校を中心として発展してきたが、昨今では欧米並みに地域スポーツクラブの中で活発に行われるようになり、社会の変化とともにスポーツの考え方も変化してきた。このようなスポーツを通して、日本の文化や伝統・規範を再認識することにより、日本のスポーツのあり方を見つめ、現代社会においてスポーツが重要な位置をしめていることをスポーツ社会学的観点から考えることができる。</p>				
-------	-------	--------	--	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>スポーツを楽しむだけでなく、勝敗の行方や、感動の場面などだけでスポーツをとらえるのではなく、スポーツを通じて起こる社会的現象を社会的事実として受けとめ、そこから役割や課題を考え、スポーツが社会にどのような役割を果たし貢献しているのかを理解し、スポーツの文化的・社会的価値を把握する。</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ方法学1、スポーツ方法学2							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

教科書				参考書・リザーブドブック			
なし				書名：スポーツ社会学講義 著者名：森川 貞夫・佐伯 聡夫 出版社：大修館書店			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	スポーツで得られる資質と社会人基礎力で必要な能力要素の共通部分を理解できる。	○
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	スポーツと経済の関係を理解することができる。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	スポーツとインターネットの関係を理解できる。	○
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	スポーツの社会的役割を理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセス明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じたとき、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ（積極的）に行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場にたって行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20				10	20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		50	20				10		80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
スポーツの社会的な役割を理解できる。					「する」「観る」スポーツから、スポーツと社会のかかわりへと発展させる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは？授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 なぜスポーツ社会学を学ぶのか。	講義形式 面接授業 コメントシート	・スポーツ社会学の必要性を考える	90
第2回 / コメントシート	授業ガイダンス スポーツ社会学の必要性（なぜスポーツ社会学を学ぶのか）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツの必要性について考える コメントシート	・スポーツは社会とどのように繋がっているのかを考える	90
第3回 / コメントシート	スポーツの社会学的理解（人間の行動としてのスポーツ）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと社会の繋がりを考える コメントシート	・スポーツを楽しむための社会的な条件を考える	90
第4回 / コメントシート	スポーツの社会学的理解（社会的行為としてのスポーツ）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと社会の繋がりを考える コメントシート	・スポーツがどのように文化として発展してきたかを考える	90
第5回 / コメントシート	スポーツの文化システム（スポーツと文化）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと文化について考える コメントシート	・スポーツと社会関係を考える（日本のスポーツ集団の特徴）	90
第6回 / コメントシート	スポーツの社会システム（スポーツ集団、相撲部屋、スポーツ集団の社会システム）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと社会関係を考える コメントシート	・スポーツと政治との関係を考える（スポーツ憲章）	90
第7回 / コメントシート	スポーツと政治・経済（スポーツと政治）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと政治の関係を考える コメントシート	・スポーツと政治との関係を考える（何のための、誰のためのスポーツか？）	90
第8回 / コメントシート	スポーツと政治・経済（政治目的の達成にスポーツを利用するケース）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと政治の関係を考える コメントシート	・スポーツと経済との関係を考える	90
第9回 / コメントシート	スポーツと政治・経済（スポーツと経済）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツと経済の関係を考える コメントシート	・スポーツと経済との関係を考える（テレビのスポーツへの影響）	90
第10回 / コメントシート	スポーツと政治・経済（スポーツとテレビ）	講義形式面接授業 ペアワーク スポーツとテレビの関係を考える コメントシート	・NBAの戦略と方法について考える	90
第11回 / コメントシート	スポーツと政治・経済（スポーツ・スポンサーシップ）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツスポンサーシップについて考える コメントシート	・スポーツに何を求めるかを考える	90
第12回 / コメントシート	日本のスポーツを考える（日本人のスポーツ観、日本的スポーツ集団、組織、生涯スポーツ）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツに何を求めるか コメントシート	・オリンピックの開催目的を考える	90
第13回 / コメントシート	オリンピックを考える（オリンピズム）	講義形式 面接授業 ペアワーク オリンピックについて考える コメントシート	・スポーツが社会にどのような影響を与えるかを考える	90
第14回 / コメントシート	スポーツの精神（スポーツが社会にどのような影響を与えるか、スポーツ力）	講義形式 面接授業 ペアワーク スポーツ力を考える コメントシート	・スポーツの社会的役割を考える	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI11S012S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	情報処理概論 Outlines of Information Processing	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	コンピュータと情報処理技術全般についての基礎知識、コンピュータの基本的な構成、その仕組みと原理を理解できることを目的とする。	
--------	--	--

キーワード	情報、情報処理、計算機械の歴史、コンピュータの概要、データの取り扱い、プログラミングと言語	学修教育目標	コンピュータの基礎知識を学ぶことによりIT技術に対する理解と興味を深めることができる。
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

テキストとプリントを中心にコンピュータの基礎知識に関する基本的な考え方を講義する。随時テーマを決めてレポートを提出してもらう。
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

情報リテラシー科目の「情報の倫理」、キャリア形成領域の「情報と職業」、情報システム領域の「情報通信ネットワーク」、「データベース論」、「システム設計論」、「セキュリティ管理」、プログラミング領域の「プログラミングⅠ」、「プログラミングⅡ」の理解につながる。
--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：コンピューターと情報システム 著者名：福田真規夫・監修／多田憲孝・前川武・矢島彰・編集 出版社：日本理工出版会	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	コンピュータの基礎知識を学ぶことによりIT技術に対する理解と興味を深めることができる。	○
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的にコンピュータや情報システムについての学修に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	情報社会の安心・安全の側面を踏まえて、情報システムの課題を分析することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	ハードウェア、ソフトウェアの仕組みおよび相互の結びつきを理解して、情報通信ネットワークなどの情報システムの成り立ちや機能を理解することができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	情報や情報機器を適正に取り扱い、情報モラルに関する知識や意識を高め、他者に配慮して行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				20	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
コンピュータと情報処理技術全般についての基礎知識、コンピュータの基本的な構成、その仕組みと原理を理解している。各項目の理解度が80%以上である。					コンピュータと情報処理技術全般についての基礎知識、コンピュータの基本的な構成、その仕組みと原理を理解している。各項目の理解度が60%～80%未満である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目的・目標、授業の概要と学習方法、評価方法について説明	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 次回の学修内容の予習	予習 30
	コメントシートを提出			
第2回 /	第1章 コンピューターとデータ表現（1） コンピューターとは	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第3回 /	第1章 コンピューターとデータ表現（2） データ表現	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第4回 /	第2章 ハードウェアとソフトウェア（1） ハードウェア	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第5回 /	第2章 ハードウェアとソフトウェア（2） ソフトウェア（1）	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	レポート			
第6回 /	第2章 ハードウェアとソフトウェア（3） ソフトウェア（2）	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第7回 /	第3章 ネットワーク（1） 通信のしくみ	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第8回 /	第3章 ネットワーク（2） インターネットのしくみ	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第9回 /	第4章 情報デザイン	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	レポート			
第10回 /	第5章 情報社会と情報システム（1） 生活を支える情報システム	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第11回 /	第5章 情報社会と情報システム（2） ビジネスを支える情報システム	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第12回 /	第5章 情報社会と情報システム（3） ものづくりを支える情報システム	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第13回 /	第5章 情報社会と情報システム（4） 情報モラル	講義（面接授業） パワーポイントで解説した後、 演習問題を行う	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第14回 /	第6章 これからの情報社会	講義（面接授業） パワーポイントで解説する	・ 学修したテキストの復習	予習 30 復習 30
	レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI11S013S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	情報の倫理 Ethics of Information	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>情報社会の進展で、職場や家庭に広く普及したコンピュータ等の情報機器を扱う環境の変化、とりわけインターネットの急激な発展で私たちの生活が便利で豊かなものになった反面、いわゆる情報モラルの低下が叫ばれ、情報の倫理がきびしく問われている。ここでは、情報社会がもたらす「光」（恩恵）と「影」（問題点）について、さまざまな事例を通して学び、理解を深めることを目的とする。</p>
--------	---

キーワード	<p>情報社会、個人情報、知的財産権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策</p>	学修教育目標	<p>情報社会をよりよく生きるために求められる有益・有害情報の取捨選択、情報の適切な取り扱いと運用、社会規範や情報ネットワークにおけるルールの遵守など、情報社会が投げかける「光」と「影」の部分に対する知識と意識を高め、適切に情報を取り扱う能力を培うことを目標とする。</p>
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では、インターネットを利用したサービスの有効性や可能性という「光」の部分と、さまざまなトラブルや悪用などの「影」の部分について認識を深める。各回の授業内で演習や課題を課すので自らの力で取組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

総合教養科目・情報リテラシーの「情報処理概論」、専門教養科目・キャリア形成領域の「情報と職業」、専門教養科目・情報システム領域の「情報通信ネットワーク」および「セキュリティ管理」の理解につながる。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：インターネットの光と影 Ver 6  
著者名：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究会グループ編  
出版社：北大路書房

書名：インターネット社会を生きるための情報倫理  
著者名：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究会グループ編  
出版社：実教出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	有益・有害情報の取捨選択、情報の適切な取り扱いと運用、社会規範やネットワークにおけるルールの遵守など情報社会の光と影の部分を理解できる。	◎
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し最適な行動を実行できる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				15	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				10	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「インターネットの光と影」とは何かを理解している。            インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分要充分理解している。個人情報、知的所有権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策などの仕組みを理解している。            各項目の理解度が80%以上である。</p>					<p>「インターネットの光と影」とは何かを理解している。            インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分を理解している。個人情報、知的所有権、有害情報、コンピュータ犯罪、セキュリティ対策などの基本的な仕組みを理解している。            各項目の理解度が60%～80%以上である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目標、学習内容、授業方法、評価方法など、「情報の倫理」を学ぶためのガイダンスを受ける。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第2回 /	情報とその特性 情報と情報の媒体、情報の価値、情報の特性などについて理解する。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第3回 /	インターネットの光と影 インターネットの有効性や利便性という光の部分、サイバー犯罪等の影の部分について認識を深める。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第4回 /	個人情報 個人情報の経済的効果、漏洩とその被害、情報の保護と漏洩対策について学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第5回 /	知的財産権 侵害や防衛に関して、コンピュータと知的所有権とのかかわりについて事例をとおして学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第6回 /	情報技術の活用と課題 遠隔医療など生活を支える情報技術とネット依存などの問題について学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第7回 /	インターネットビジネス インターネットショッピングやオークションの利用と売買トラブルやマルチ商法等の問題、消費者保護、電子マネーの利用やテレワークなどのワークスタイルの変化について学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第8回 /	ネットワーク上の問題行動と有害情報 インターネットを用いた問題行動、名誉毀損、炎上、性犯罪、いじめなどの問題、さらに有害情報やフィルタリングの利用などについて学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第9回 /	情報コミュニケーションとモラル 電子メール、メーリングリスト、SNS やブログ、動画視聴サイトなどソーシャルメディアの活用と、使用上のモラルについて理解する。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第10回 /	コンピュータ犯罪 不正アクセス、ネット詐欺や違法物の販売などのサイバー犯罪、コミュニティサイトを通じた犯罪について、事例を通じて理解する。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第11回 /	情報セキュリティ パスワードほか各種認証、コンピュータウイルスの被害と対策、Web ページや電子メールのセキュリティ、暗号化技術の利用について学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第12回 /	情報操作 情報の独占・隠蔽、捏造、改ざん、隠蔽・消去が社会におよぼす影響について学ぶ。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第13回 /	情報機器使用のマナーとモラル スマートフォン、ゲーム機、タブレット PC 等の情報機器を使用する際のモラルとマナーについて考え、意識を高める。	講義（面接授業）  DVD教材、パワーポイント	・ 学修したテキストの復習  ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第14回 /	まとめ 情報倫理の学習を振り返り、まとめを行う。	講義（面接授業）  パワーポイント	・ 学修した内容の復習  ・ 次回の学修内容の予習	復習 30
	コメントシートを提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014B	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I（ベーシック） Software Literacy I (Basic)	1 単位	選択必修	演習	1 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、Wordの基本的な機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。	
	キーワード	学修教育目標

Word  
文書の作成

学修教育目標

学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、日常よく使用する文書やレポート類を自分の力で作成できるようになることが目標である。

授業科目の概要及び学修上の助言

Wordの基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quickによる入力練習に時間をかけることが望まれる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっている。  
「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の1つになっている。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：Word 2019 クイックマスター（基本編）  
著者名：ウィネット  
出版社：ウィネット

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Wordの基本的な操作技能を身につける。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コラトシート等)	合計
総合評価割合			45	25			30			100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、文字の入力に抵抗がない。					テキストを参考にしながらコンピュータの基本操作と Word の基本操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習（面接授業）※ ※すべての回において面接授業を基本としますが、受講人数や感染状況で課題提出となる場合があります。	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	30
	課題			
第2回 /	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Wordの基本（第1章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第3回 /	タイプクイック練習 Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第4回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章） タイプクイック	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第5回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第6回 /	タイプクイック練習 文書の編集（第3章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第7回 /	タイプクイック練習 文書の印刷（第4章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第8回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第9回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第10回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第11回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト			
第12回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第13回 /	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第14回 /	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習※	社会人基礎力事後自己評価シートの記入  復習：学期末テストに向けて	60
	課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I（スタンダード） Software Literacy I (Standard)	1 単位	選択必修	演習	1 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。	
	キーワード	学修教育目標

Word  
文書の作成  
Word 文書処理技能認定試験  
Microsoft Office Specialist Word

学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Word」にも挑戦することを目標とする。また、Type Quick 検定は SILVER LEVEL（正確率 95% 以上かつスピード 30WPM を目指す。

授業科目の概要及び学修上の助言

Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっている。  
「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の 1 つになっている。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：Word 2019 クイックマスター（基本編）  
著者名：ウィネット  
出版社：ウィネット

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解し IT に関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Word の基本的な操作技能を身につけ活用できる。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コラージュ等)	合計
総合評価割合			45	25			30			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net）	面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	30
	課題			
第2回 /	タイプクイック導入 Wordの基本（第1章）	面接授業	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第3回 /	タイプクイック Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第4回 /	タイプクイック 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第5回 /	タイプクイック 文書の編集（第3章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第6回 /	タイプクイック 文書の印刷（第4章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第7回 /	タイプクイック 文書の作成（第5章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第8回 /	タイプクイック 文書の作成（第5章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第9回 /	タイプクイック 表を使った文書の作成（第6章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第10回 /	タイプクイック 表を使った文書の作成（第6章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト			
第11回 /	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第12回 /	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第13回 /	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	面接授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第14回 /	タイプクイック 総合学習問題の解説と練習	面接授業	社会人基礎力事後自己評価シートの記入  復習：学期末テストに向けて	60
	課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014A	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I（アドバンス） Software Literacy I (Advanced)	1 単位	選択必修	演習	1 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的

この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。また、資格取得にも積極的に挑戦する。

キーワード

Word  
文書の作成  
Word 文書処理技能認定試験  
Microsoft Office Specialist Word

学修教育目標

学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Word」の少なくとも一方を取得することを目標とする。また、Type Quick 検定は GOLD LEVEL（正確率 97%以上かつスピード 50WPM を目指す）。

授業科目の概要及び学修上の助言

教科書および配布教材を用いる。Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を修学する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっている。

教科書

書名：Word 2019 クイックマスター（基本編）  
著者名：ウィネット  
出版社：ウィネット

参考書・リザーブドブック

『WORD 文書処理技能試験 3 級問題集』  
サーティファイ  
サーティファイ

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解し IT に関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Word の基本的な操作技能を身につけ自在に文書作成ができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				50			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Wordの基本操作だけでなく、実用的にWordを使いこなすことができ、人に教えることもできる。					Wordの基本操作ができ、日常的な文書作成にWordを使うことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作の確認	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	60
第2回 /	タイプクイック導入 Wordの基本（第1章）	講義、演習 面接授業		60
第3回 /	タイプクイック練習 Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習 面接授業		60
第4回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章） タイプクイック	講義、演習 面接授業		60
第5回 /	タイプクイック練習 文書の編集（第3章）	講義、演習 面接授業		60
第6回 /	タイプクイック練習 文書の印刷（第4章）	講義、演習 面接授業		60
第7回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習 面接授業		60
第8回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習 面接授業		60
第9回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習 面接授業		60
第10回 /	Word 資格模擬問題	講義、演習 面接授業		60
第11回 /	Word 資格模擬問題	講義、演習 面接授業		60
第12回 /	Word 資格模擬問題	講義、演習 面接授業		60
第13回 /	Word 資格模擬問題	講義、演習 面接授業		60
第14回 /	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習 面接授業	復習：学期末テストに向けて	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015B	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（ベーシック） Software LiteracyⅡ（Basic）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力の基礎を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解し、データの編集、表の作成、グラフの作成、図形の作成、関数、並べ替えなどの基本操作を修得する。	
	Excel 表の作成 グラフの作成	実際の作成例をもとに、図表の作成、グラフや図形の作成、簡単な数式の計算ができるようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっています。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編）

著者名：ウィネット

出版社：ウィネット

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Excelの基礎的な操作技能を身につける。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		10					50
	技能に関する評価		10		10					20
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				30					30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Excel の基本操作を理解し、Excel の基本操作ができる。					テキストを参考にしながら、Excel の操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを修得する。	面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	60
	コメントシート			
第2回 /	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2章 データの編集			
第3回 /	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2章 練習問題3			
第4回 /	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 3章 表の編集			
第5回 /	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 4章 ブックの印刷			
第6回 /	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章の1 グラフと図形の作成/グラフの作成			
第7回 /	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章の2 グラフと図形の作成/図形の作成			
第8回 /	グラフと図形の作成 (3) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章 練習問題1、練習問題2			
第9回 /	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章の1 関数/統計計算			
第10回 /	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章の2,3,4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第11回 /	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章 練習問題1			
第12回 /	関数(4) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章 練習問題2			
第13回 /	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 8章 データベース機能			
第14回 /	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。	面接授業	社会人基礎力事後自己評価シートの記入	60
	総合学習問題		授業内容の復習と課題	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（スタンダード） Software Literacy II（Standard）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。Excelは他の授業や卒業後社会に出ても使う機会が多く、一通り使えるようになっておく必要がある。	
	キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel表計算技能認定試験 MOS Excel

学修教育目標

学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Excel」にも挑戦することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。パソコン操作が苦手な学生は、自主学習により時間をかけてくることが望まれる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要となることがある。日常的にパソコンを使用すること。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編）  
著者名：ウィネット  
出版社：ウィネット

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Excelの基本的な操作技能を身につける。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ◎
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価の 指標	知識に関する評価		35		15					50
	技能に関する評価		10		15					25
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	コメントシート			
第2回 /	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2章 データの編集			
第3回 /	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2章 練習問題3			
第4回 /	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 3章 表の編集			
第5回 /	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 4章 ブックの印刷			
第6回 /	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章の1 グラフと図形の作成/グラフの作成			
第7回 /	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章の2 グラフと図形の作成/図形の作成			
第8回 /	第1回から第7回までの復習	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5章 練習問題3			
第9回 /	ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 6章 ブックの利用と管理			
第10回 /	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章の1 関数/統計計算			
第11回 /	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章の2,3,4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第12回 /	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章 練習問題1、練習問題2			
第13回 /	第9回から第12回までの復習	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7章 練習問題3			
第14回 /	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 8章 データベース機能			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015A	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（アドバンス） Software Literacy II（Advanced）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。サーティファイまたはマイクロソフトが主催するExcelの認定試験の対応をする。	
	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標 学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につける。全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Excel」にも合格することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修し、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。技能確認のため、課題作成を行なう。単位取得には、課題を全て提出する必要がある。また、認定試験に合格できるように学習時間を確保すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっています。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編）  
著者名：ウィネット  
出版社：ウィネット

書名：Excel表計算処理技能認定試験3級問題集（2019対応）  
著作者：サーティファイ  
出版社：サーティファイ

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	Excelの操作技能を身につける。 ◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	表計算ソフトの理解に関して、目的や課題を明らかにすることができる。 ◎
	② 計画力	自身の技能に合わせて課題を仕上げるスケジューリングや条件などをまず整理して計画する。 ◎
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。 ◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				50			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、人に教えることができる。Excel に関する認定試験に合格できる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1章 授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 (以下、毎回、時間とも同様)	60
第2回 /	第2章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習 面接授業		60
第3回 /	第3章 表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習 面接授業		60
第4回 /	第4章 ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習 面接授業		60
第5回 /	第5章 グラフと図形の作成 グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習 面接授業		60
第6回 /	第6章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習 面接授業		60
第7回 /	第7章 関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業		60
第8回 /	第7章 関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業		60
第9回 /	第8章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習 面接授業		60
第10回 /	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	講義、演習 面接授業		60
第11回 /	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	講義、演習 面接授業		60
第12回 /	表計算処理技能認定試験対応（3） 練習と解説	講義、演習 面接授業		60
第13回 /	表計算処理技能認定試験対応（4） 練習と解説  練習問題5、練習問題6	講義、演習 面接授業		60
第14回 /	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習 面接授業	復習：学期末テストに向けて	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI32S016S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	プレゼンテーション演習 Presentation Exercise	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>ビジネスを進める際に重要にあるのは、自分の理想や理念に周囲がどれだけ共感してくれるかということである。周囲の人々の共感を得るためには、自らの理想や理念を効果的に伝える能力が必要である。この講義では、自分が伝えたいと思っている事柄を効果的に相手に伝える方法について様々な状況を想定して実践的に学ぶ。</p>	
	機能的・効率的表現	<p>時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>課題作成提出が最大の課題である。常にバックアップを行うこと。</p>
---------------------------------------

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特になし。</p>
--------------

教科書

参考書・リザーブドブック

<p>書名：30時間でマスター プレゼンテーション + powerpoint 2019 著者名：実教出版編修部 出版社：実教出版</p>	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	心豊かな人間になる。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	臨機応変さを身につける。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	視野を広げる。	△
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	道具として使いこなす。	◎
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	専門性に誇りをもつ。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	あきらめない	◎
	② 働きかけ力	ポジティブな態度	◎
	③ 実行力	楽しむ気持ちも大切	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	丁寧に進める。	○
	② 計画力	最終目標を設定する。	◎
	③ 創造力	新しい発想	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識する。	◎
	② 傾聴力	集中する力	◎
	③ 柔軟性	多角的発想	◎
	④ 状況把握力	相手の立場を尊重する力	○
	⑤ 規律性	マナーを知る。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	癒しの方法を探す。	○
4. 倫理観	① 倫理性	情報倫理として、人に迷惑をかけないとは何かを考える。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	19		40				100
評価 の 指標	知識に関する評価		21	10		10				41
	技能に関する評価		5			25				30
	応用力に関する評価		5	4						9
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	5		5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。					時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 受講上の諸注意、プレゼンテーションの基本的な考え方を学ぶ。	講義 パワーポイント 基本：面接授業	・パワーポイント操作方法	予習 30
第2回 /	プレゼンテーション構成 プレゼンテーションの基本構成を考え、プレゼンテーション確認シート作成について学ぶ。	講義 パワーポイント 基本：面接授業	・パワーポイント操作方法	予習 30 復習 30
第3回 /	配布資料の作成 口頭発表時に配布する資料について学び、実際に作成する。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業	・パワーポイント操作方法	予習 30 復習 30
第4回 /	口頭発表法の習得と確認シートの作成 口頭発表法を学び、テーマに基づく発表用のアウトラインを作成する。 時間内課題の提出	講義 パワーポイント 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第5回 /	口頭発表（1） 前回作成したアウトラインを元に口頭発表をする。 発表会	実習 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第6回 /	パワーポイントの復習（1） パワーポイント操作方法の復習をする。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第7回 /	パワーポイントの復習（2） パワーポイント操作方法の復習をする。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第8回 /	プレゼンテーション演習（1） 与えられたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成をする。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第9回 /	プレゼンテーション演習（1） 前回課題を完成する。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業	・課題の提出方法	予習 30 復習 30
第10回 /	口頭発表（2） 「プレゼンテーション演習（1）」で作成したスライド、配布資料を用いて口頭発表をする。 発表会	実習 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第11回 /	プレゼンテーション演習（2） 各自で考えたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成をする。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第12回 /	プレゼンテーション演習（2） 各自で考えたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成し完成する。	講義と実習 パワーポイント 基本：面接授業	・課題の提出方法	予習 30 復習 30
第13回 /	「プレゼンテーション演習（2）」発表と質疑応答（1） 口頭発表後、質疑応答後に相互評価をする。 時間内課題の提出	実習 基本：面接授業		予習 30 復習 30
第14回 /	「プレゼンテーション演習（2）」発表と質疑応答（2） 口頭発表後、質疑応答後に相互評価をする。 成果発表	実習 基本：面接授業		予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F017S	総合教養科目 基本教養科目	茶道と文化 Tea Ceremony and Japanese Culture	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	(1) 裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 (2) 日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。	
	伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心	学修教育目標 「初級」の資格の許状を申請できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵
----	--

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	日常生活でのルールやマナーを理解できる。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりを理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	感謝の心や物に動じない精神力を育むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標 (※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために協力することの必然性を伝えることができる。	◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、行動できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に分析し、課題を解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の気持ちを思いやり、意見をきくことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分のおかれている立場を正確に把握できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	20	20			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	1	10				1	22
	技能に関する評価		10	1		10			1	22
	応用力に関する評価		10	1					1	12
	チームワークに関する評価		10	1					1	12
	関心・意欲に関する評価		10	1	10	10			1	32
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。					茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意 ②呈茶（自分で茶をたてて飲む）	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第2回 /	客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞 ③呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第3回 /	基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第4回 /	茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第5回 /	茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第6回 /	茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶  小テスト	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第7回 /	レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第8回 /	茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第9回 /	レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第10回 /	現代の茶道 ①盆略点前 (4)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第11回 /	茶と禅 ①盆略点前 (5)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第12回 /	茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第13回 /	総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第14回 /	①実技試験（盆略点前）	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLB31F018S	総合教養科目 基本教養科目	近代史の探究 Research in Modern History	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期	
<b>授業科目の学修教育目的・目標</b>								
学修教育目的	<p>現代は世界各地で宗教紛争が起り、異文化同士が衝突する時代である。近代という時代（16～19世紀）は、現代の直前の時代としてきわめて重要な意味を持っている。近代の歴史とこれに続く現代の歴史を学ぶことは、今後の世界を生きていくうえで必要不可欠と言える。</p> <p>以上のことをふまえ、この授業では、現代世界の成り立ちについて、近現代の歴史を学ぶことを通して、理解できるようになることを目的とする。</p>							
キーワード	異文化理解 宗教 グローバリズム ナショナリズム 文明の衝突	学修教育目標	<p>近代の歴史のおおまかな流れを理解し、説明できるようになる。</p> <p>現代の国際問題のニュースについて関心・興味をもってアクセスできるようになり、自分でより深く調査できるようになる。</p>					
<b>授業科目の概要及び学修上の助言</b>								
<p>面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第1回目の授業で説明する）。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。</p>								
<b>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能</b>								
<p>「西洋史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」と関連する。</p>								
<b>教 科 書</b>				<b>参考書・リザーブドブック</b>				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）						
①	心理の専門知識を身につける。							
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	近代史に関する理解を土台にして、現代の世界情勢について自分なりの考え方を持つことができる。					○	
<b>授業科目における社会人基礎力の育成目標</b>								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。					○	
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。					○	
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					○	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。					○	
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○	
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。					◎	
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。					◎	
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					○	
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。					○	
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。					○	
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。					○	
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。					○	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワークに関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>授業で学んだことをもとにして、現代の国際情勢に関するニュースや書籍等に自らアクセスし、それらの資料をもとにして、自分なりの考え方を深めることができるようになる。</p>					<p>授業で学んだことから、現代の国際情勢に関する自分なりの考え方を持つことができるようになる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 1. 現代と近代史の関係	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	2. 冷戦とは何か	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	3. 孤立国家としての日本	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	4. アメリカの歴史と宗教	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	5. 現在のアメリカの政治	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	30
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	6. アメリカと日本の関係	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	7. 多極化・多文明化する世界	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	8. 「文明の衝突」説	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	9. 現代世界と宗教	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	10. 近代史のなかの日本とアジア①：明治・大正	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	11. 近代史のなかの日本とアジア②：昭和・平成	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	12. 近代史のなかの日本と西洋①：明治・大正	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	13. 近代史のなかの日本と西洋②：昭和・平成	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	14. 今後の日本と世界	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. のWeb 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31S019S	総合教養科目 基本教養科目	日本の文学 Japanese Literature	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>講義の前半では、文化遺産としての古代文学・歴史について学ぶ。 文化遺産としての古代文学・歴史について学ぶ。 日本文化の国際化という流れの中にあって、まず自分の国の文化についての正しい認識が必要と考えられる。学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、日本人の心性を探り、広く人間と文学についても考える力をつける。主として『万葉集』等上代文学を通して、言語はもとより、起伏あるわが国の自然・風土、さらに時代や社会生活が如何に優れた文学作品を生み育んだかを学ぶ。なお、NHKの教育テレビや市販のビデオも許可を得て教材として使用することがある。魅力的な教養番組は大いに活用するつもりである。視覚にも訴えながら、日本の古代の行事などについて分かりやすく講義するつもりである。 講義の後半では、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学について学ぶ。</p>	
	キーワード	<p>日本文学史</p>

学修教育目標

学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、日本人の心性について理解ができ、広く人間と文学についても考える力を養うことができる。又、日本の古代の行事などについて基本的な知識を身につけることができる。  
また、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学について自分の考えを述べるができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

臨場感をもった聴覚教材を多用して、歴史の真実に迫る。シラバスのタイトルなどの内容をあらかじめ調査しておく方が興味をもてよう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

教科書

オリジナルのプリントを配布する。

参考書・リザーブドブック

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。		
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	歴史や文学を通して先達の「知恵」を学び、実社会での問題解決能力を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	24	20		15			100
評価 の 指標	知識に関する評価		41	24	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				5					5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5		15			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
古代の日本文学と歴史的背景を正しく学ぶ。各回の内容（講義と視聴覚教材）はもちろんそれぞれの授業内容の相互関連性をもよく理解されている。					授業内容の相互関連性は多少分かりづらい面があっても、各回の内容について興味を持つ部分については詳しく感想や疑問を投げかけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業ガイダンス。前半は神話の世界から万葉時代まで（古典文学）。—文学と歴史のあいだ—とは何か、授業の進め方と現代における文学の研究意義や歴史学との関係について述べる。後半は日本の近世文学から近代文学へ、さらに現代文学について。全体としてオムニバス方式で開講する意味について述べる。	講義・レジュメはパワーポイント 対面授業		予習 30 復習 30
第2回 /	シャーマン（卑弥呼）について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第3回 /	出雲神話について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第4回 /	伊勢神宮の <sup>さいぐう</sup> 齋宮について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第5回 /	古事記の成立と内容について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第6回 /	万葉時代と現代の生活の相違点を3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第7回 /	近代文学	対面授業	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第8回 /	後半授業の進め方 日本の近世文学（1）—上方文学～〇〇作家～ 井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門等を取り上げる	講義と学生による指導演習①班 （上方文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第9回 /	前回授業の復習テスト①と 日本の近世文学（2）—江戸文学～〇〇本～ 洒落本・滑稽本・黄表紙・読本・人情本・合巻・狂歌・川柳等を取り上げる	講義と学生による指導演習②班 （江戸文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第10回 /	前回授業の復習テスト②と 日本の近現代文学（1）—明治文学～〇〇主義～ 写実主義・擬古典主義・浪漫主義・自然主義・反自然主義について取り上げます	講義と学生による指導演習③班 （明治文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第11回 /	中間評価①（第9回～第11回学修内容復習）と 日本の近現代文学（2）—大正文学～〇〇派・主義～ 耽美派・白樺派・新現実主義等について取り上げます	講義と学生による指導演習④班 （大正文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第12回 /	前回授業の復習テスト③と 日本の近現代文学（3）—昭和文学～〇〇文学・派～ プロレタリア文学・新感覚派・新興芸術派・新心理主義等について取り上げ	講義と学生による指導演習⑤班 （昭和文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第13回 /	前回授業の復習テスト④と 日本の近現代文学（4）—平成文学— 平成の文学を取り上げます	講義と学生による指導演習⑤班 （平成文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
第14回 /	中間評価②（第12回～第14回学修内容復習） と児童文学 児童文学等について取り上げます	講義と学生による指導演習⑥班 （平成文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F020S	総合教養科目 基本教養科目 社会と経済	法と社会 Law and Society	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>現代社会に生きる我々は法という規範によって自由と平等・社会秩序が保障されている。法律を初めて学ぶ学生に法律についての全体像が把握できるように具体的に平易に解説する。憲法が国法の体系の中でももっとも強い形式的効力をもつこと、すなわち、憲法に反する一切の国法は効力をもたない。その憲法を主に研究したい。天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を習得することを目的とする。</p>	
	<p>国家と国民、 法と法律</p>	<p>学修教育目標</p> <p>憲法の理解を基に、天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を持つことができる。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>いわゆる六法の類型を理解し、日本国憲法の周辺知識と、基礎的内容を学修する。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>他の科目も、法律に基づき開講されているものが多くある。根拠法律を一読することが必要で、その読解力の養成につなぐ。</p>
---

教科書

参考書・リザーブドブック

<p>書名：改訂版 新・学習憲法 著者名：構木 純二・金谷 重樹・吉川 寿一著 出版社：晃洋書房</p>	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	法と道德との基礎的關係の理解	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	民事法、公法の理解	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	民事法、公法の理解	◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	民事法、刑事法・公法の理解	△
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	民事法、刑事法・公法の理解	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	法の理解力向上による行動力の向上。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力	法的思考力の醸成による能力向上。	◎
	② 計画力	法的思考力の醸成による洞察力。	◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	○
	③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。	△
	④ 状況把握力	法的思考力の醸成。	◎
	⑤ 規律性	法的思考力の醸成による規範能力向上。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	正義観の向上。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	20	10				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	10	5				10	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15	5	3				3	26
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	5	2				2	19
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 65 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授 業 計 画 表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 自己紹介と講義の進め方と評価、法律とはどのような学問かを説明する。	面接授業 講義		
第2回 /	法とは何か、法の存在形式と目的 法と社 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法の重要性について。	面接授業 講義	NHK テレビニュース 19:00, 21:00 等を聴取する	60
第3回 /	法とは何か、法の存在形式と目的 法と社 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法の重要性について。	面接授業 講義	同上	60
第4回 /	法の種類と体系 法と法律の違い。法源・法の理念について。 成文法 不文法 国際法 国内法（公法・司法・社会法）	面接授業 講義	同上	60
第5回 /	法の効力・適用と解釈 法の効力と解釈の仕方。有権解釈 学理解釈 立法解釈 司法解釈 行政解釈 文理解釈 論理解釈 法不遡及の原則。既得権尊重の原則。	面接授業 講義	同上	60
第6回 /	法と権利義務 権利とは何か、義務とは何か。 国民の三大義務 現代は法を権利の面から、古代中世は法を義務の面から。	面接授業 講義	同上、その他日本史教科書を読む	80
第7回 /	憲法 日本国憲法と明治憲法との比較 国家とは何か 憲法とはどのような 法律か。国家とは何か。日本国憲法と明治憲法との比較	面接授業 講義	同上	80
第8回 /	天皇 皇室 象徴天皇制 女性天皇問題 皇室財産	面接授業 講義	同上	80
第9回 /	基本的人権 基本的人権の体系と三権分立のしくみ 人権の限界 基本的人権と公 共の福祉の関係 環境権 新しい人権 幸福追求権 政教分離原則	面接授業 講義	NHK ニュース等を聴取	60
第10回 /	国会 国会の最高機関性 唯一の立法機関 衆議院の優越 国会議員の特権	面接授業 講義	同上	60
第11回 /	内閣 財政 内閣の機能 内閣の衆議院の解散権 文民財政に関する憲法上の原則 租税法律主義	面接授業 講義	同上	60
第12回 /	地方自治 民主主義の学校としての機能。 地方自治の本旨と住民の直接請求 権。	面接授業 講義	同上 その他新聞、地域新聞を読む	80
第13回 /	憲法改正 裁判所 司法権の独立 大津事件 三審制度 違憲立法審査権	面接授業 講義	NHK ニュース等を聴取	60
第14回 /	国際法 国際社会と法 国際法の特徴 国際公法と国際私法	面接授業 講義	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB33S021S	総合教養科目 基本教養科目	暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。</p>
--------	--

キーワード	<p>最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治</p>	学修教育目標	<p>本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するののかも国際・国内を越えて考えることができる。</p>
-------	--	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、今現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p>
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、今現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p>
---

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：はじめての憲法学 第2版 著者名：中村 睦夫 編著 出版社：三省堂</p>	<p>講義の際に必要なに応じて紹介する。</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	法に基づく基本的人権を知る。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	福祉国家理念に基づく制約を知る。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	人権に沿った社会人としての自覚が持てる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						20	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		19						21	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また裁判員制度・18歳選挙権なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。</p> <p>各項目の理解度が80%であること。</p>					<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また裁判員制度・18歳選挙権なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。</p> <p>各項目の理解度が60%～80%であること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	憲法を学ぶ ・憲法の意義、学び方 ・成績評価方法等	講義形式（面接授業）	憲法について予習すること	30
第2回 /	国際協調主義 ・周辺諸国との領土問題 ・自衛権	講義形式（面接授業）	国際協調主義について予習すること	30
第3回 /	憲法改正問題 ・憲法9条を中心とする憲法改正論議	講義形式（面接授業）	憲法改正問題について予習すること	30
第4回 /	平和と憲法 ・憲法9条の平和主義 ・国際協調主義	講義形式（面接授業）	国際協調主義について予習すること	30
第5回 /	政治と憲法 ・政治のあり方（三権分立・議院内閣制等）	講義形式（面接授業）	三権分立・議院内閣制について予習すること	30
第6回 /	経済と憲法 ・資本主義経済と制度的保障	講義形式（面接授業）	資本主義経済について予習すること	30
第7回 /	税金と憲法 ・納税の義務と租税法律主義	講義形式（面接授業）	納税の義務について予習すること	30
第8回 /	社会保障と憲法 ・生存権的基本権（生活保護など）	講義形式（面接授業）	社会保障について予習すること	30
第9回 /	報道と憲法 ・表現の自由・知る権利・報道の自由	講義形式（面接授業）	表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること	30
第10回 /	プライバシーと憲法 ・個人のプライバシー権と個人情報保護	講義形式（面接授業）	プライバシー権について予習すること	30
第11回 /	刑事訴訟と憲法 ・奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	講義形式（面接授業）	刑事訴訟について予習すること	30
第12回 /	裁判所と憲法 ・法令審査権と三審制 ・裁判員制度	講義形式（面接授業）	裁判所について予習すること	30
第13回 /	地方自治法と憲法 ・地方自治制度と地方分権	講義形式（面接授業）	地方自治について予習すること	30
第14回 /	まとめ（1） （第1回からの内容のまとめを行う）	講義形式（面接授業）	これまでの授業の内容について復習すること	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31S022S	総合教養科目 基本教養科目	商学概論 Survey of Commerce	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>現代の産業社会の変化に対応するには、商学を学び、ビジネスの基礎・基本の能力を養うことである。それにはビジネスに対する心構え、経営理念、企業家精神などを育みながら、将来、社会に役立つために、商品の流通に関する知識を持つておくことが重要である。</p>						
--------	---	--	--	--	--	--	--

キーワード	<p>商業における構造（小売・卸売業、現代の流通構造） 商業における関係（流通系列化、製販統合） 商業における行動（小売・卸売業者、商業革新）</p>	学修教育目標	<p>ビジネスは「企業が利潤の追求を目的に営む経営活動」である。この活動は、生産・流通・消費にかかわる様々な経営活動と行うことができる。本講では、社会の急速な発展の中、幾多の商品が流通の働きによって円滑に動いている。その流通の重要性を理解することができる。</p>				
-------	---	--------	--	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>まず流通構造の全体的な特徴がどのようにして決まるかという「構造」の問題について説明する。それを受けて、生産者と事業者の「関係」の様々な側面や意味を考える。そして事業者の「行動」に関わる問題を検討する。商業の全体像からその構成員の関係、そして個々の構成員レベルに視点を移す中で、商業の多様性について理解を深める。授業内容でわかりにくい点は、必ず授業の後や授業以外でもどんどん質問して、解決を図る。</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「流通システム論」「販売管理論」と関連がある。日々の買い物の中で多様な商業施設に接し、新聞等の流通関係記事を読み、理解を深める。</p>							
---	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブブック			
<p>書 名：現代商業学 著者名：高嶋克義 出版社：有斐閣アルマ</p>							

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	現代の商業や流通の変化について理解する。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	商業や流通に関する基礎的な知識を身につける。	◎
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	専門用語を学ぶ。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に取り組む姿勢・意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	予習・復習	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を持ち課題に取り組む。	○
	② 計画力	レポートを時間内にまとめることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを積極的に発言できる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞き、理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	授業のルールを守る。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中、他者の迷惑になるようなことをしない。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			48	52						100
評価 の 指標	知識に関する評価		25	39						64
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15	13						28
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		8							8
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
商業や流通に関する基礎的知識を十分理解している。 現在の商業や流通の変化について十分理解している。					商業や流通に関する基礎的知識を理解している。 現在の商業や流通の変化について理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	※14回全て面接授業 ・シラバス内容や授業の進め方等について解説 ・学習メモ	・講義復習（60分）	60
第2回 /	商業における構造（1） 商業とは何か  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第3回 /	商業における構造（2） 小売商業の構造  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第4回 /	商業における構造（3） 卸売商業の構造  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第5回 /	商業における構造（4） 現代の流通構造  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第6回 /	商業における関係（1） 商業における信頼関係  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第7回 /	商業における関係（2） 商業におけるパワー関係  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第8回 /	商業における関係（3） 生産者による流通系列化  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第9回 /	商業における関係（4） 小売業者による製販統合  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第10回 /	商業における関係（5） 小売業者によるPB開発  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第11回 /	商業における行動（1） 小売業者の行動  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第12回 /	商業における行動（2） 卸売業者の行動  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第13回 /	商業における行動（3） 商業における革新  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第14回 /	商業における行動（4） 中小商業問題  小テスト	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・講義復習（60分）	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F023S	総合教養科目 基本教養科目	地球の歴史（地球環境と生命との相互作用） History of the Earth (Interaction of Earth Environment and Life)	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>地球と生命の歴史についての研究は近年急速に進展している。振り返ると、私たち人類の様々な経済活動はすべて地球上で行われるのであり、その基盤は地球の変動と密接に関連している。46億年の地球の歴史の中で、人類が地上に現れるのはほんの数百万年前にすぎない。人類は自らを含めた生命と地球の未来をどうしていくかが問われており、それを考えるためのヒントを身につけていく。</p>
--------	---

キーワード	地球、生命、環境、歴史	学修教育目標	<p>本講義ではこれからの人類の生き方を考えるための足掛りを身につけることができる。また近年、環境に配慮した経営が求められている。すべての生命体が暮らしている母体は地球であり、その歴史と環境を正しく理解することで、これからの時代に求められる経営の理念を知ることができる。</p>
-------	-------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストやプリント等を基に、各項目の基本的な考え方を講義し議論する。</li> <li>・さらに映像・画像を交え視覚的にテーマを説明し議論する。</li> <li>・授業冒頭に小テストを実施し、終了後には課題を提示し、レポートを作成する。</li> <li>・テキストの他にも関連する多数の書物が図書館にも所蔵されている。興味を持てるテーマがあれば、ぜひ自ら深く調べてみよう。</li> <li>・授業に関して、疑問の箇所があれば、次回の授業までに理解しておこう。</li> </ul>
---

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>関連する学科目としては、2年次に開講される「環境と経営」と関連が深く、今後学修することでいっそう理解を深めることができる。</p>
--

教科書

参考書・リザーブブック

<p>書 名：改訂新版 地球のしくみと生命進化の46億年 著者名：西山 昌司 出版社：合同出版</p>	なし
---	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。		
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	現在の経済社会が抱える環境問題を解決へと導くため、地球科学の基礎知識を理解することができる。	◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。		
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。		
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	地球科学に関する議論に、進んで取り組む姿勢を持つことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	地球科学に関する議論で、目的を設定し行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	地球科学に関する議論で、目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	地球科学に関する議論で、新しいアプローチを取ることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	地球科学に関して、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	地球科学に関して、相手の意見を丁寧に聴くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	35	20					100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	10					55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		5	10	5					20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5	15	5					25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「地球の歴史」に関する様々な話題に興味を持ち、自ら調べることができる。  「地球の歴史」に関する様々な課題に関して、自ら行動することができる。  総合的な理解度が80%以上である。</p>					<p>「地球の歴史」に関する様々な話題に興味を持つことができる。  「地球の歴史」に関する様々な課題に関して、関心を持つことができる。  総合的な理解度が60～79%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回	ガイダンス - 本講義の進め方や受講上の注意事項 - ① 地球への関心 ② 日本列島と地震、津波・防災	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	ガイダンスで取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	ガイダンスに関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第2回	地球が誕生する条件 ① 太陽系の生成 ② 地球と金星の違い	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	地球誕生で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	地球誕生の条件に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第3回	地球の誕生・宇宙の中の地球 ① 原始地球の形成・微惑星の衝突・隕石 ② 氷河期・地球温暖化	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	宇宙と地球で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	宇宙と地球に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第4回	宇宙の形成 ① ビッグバン・物質の形成・元素の誕生	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	宇宙で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	宇宙に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第5回	地球と月の関係・水の起源 ① 月の形成・月が地球にもたらす恩恵 ② 水はどこから来たのか	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	月で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	月に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第6回	生命の起源 (1) ① バクテリアの誕生・原核生物の出現・アミノ酸の種類	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命の起源(1)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命の起源に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第7回	生命の起源 (2) ① 深海の世界・熱水噴出孔・好熱菌	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命の起源(2)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命の起源に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第8回	生命の進化 (1) ① 地球磁場の誕生・真核生物の誕生	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命進化(1)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命進化に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第9回	生命の進化 (2) ① ストロマトライト・酸素発生型光合成の開始 ② 全地球凍結 ③ 多細胞生物の発展	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命進化(2)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命進化に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第10回	生命の発展 (1) ① カンブリア紀の爆発・生物の多様化	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命発展(1)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命発展に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第11回	生命の発展 (2) ① 海と陸の違い ② プレートテクトニクスと生命の相互作用 ③ 超大陸の形成と分裂の歴史	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命発展(2)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命発展に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第12回	生命の発展と危機 (1) ① 両生類・昆虫・爬虫類の発展 ② 火山活動による地球全体の温暖化 ③ 古生代末の大絶滅・大絶滅の歴史	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命の危機(1)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命の危機に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第13回	生命の発展と危機 (2) ① 爬虫類・ほ乳類の登場 ② 恐竜の巨大化 ④ 中生代／新生代境界・隕石の衝突か？	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	生命の危機(2)で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	生命の危機に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第14回	大陸移動、環境変化、人類と地球の未来 ③ 鳥類と爬虫類の発展 ④ 南極大陸と寒冷化 ④ エベレストの形成と気候変化 ④ 人類の誕生と未来の地球環境	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて、原則として面接授業で運営する。	環境変化で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
／	環境変化に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB32S024S	総合教養科目 基本教養科目	環境と経営 Environment and Management	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	地球温暖化を始めとして地球環境の悪化に対して様々な警鐘が鳴らされている。それに伴い企業の社会的責任もますます高まってきている。今や企業経営は環境を無視しては語れなくなってきている。ここでは環境問題の状況や解決の糸口を理解し、企業活動の側面から環境問題へ対峙できる力を養うことを目的とする。
--------	--

キーワード	地球、環境、経営、経済、利益	学修教育目標	本講義ではものとカネ一辺倒の経済の枠を超えて、自然と共生できる経済を目指す考え方へ転換する意義を考察することができる。具体的には、様々な環境汚染、地球温暖化の諸問題、再生可能エネルギー、生物多様性等の問題点と対応策を知り、環境問題において、企業と行政や個人の関わりを考察することができる。
-------	----------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストやプリント等を基に、各項目の基本的な考え方を講義する。</li> <li>・さらに映像・画像を交え視覚的にテーマを説明する。</li> <li>・授業終了後に課題を提示し、レポートを作成する。</li> <li>・テキストの他にも関連する多数の書物が図書館にも所蔵されている。興味を持てるテーマがあれば、ぜひ自ら深く調べてみる。</li> <li>・授業に関して、疑問の箇所があれば、次回の授業までに理解しておくこと。</li> </ul>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし
------

教科書	参考書・リザーブブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	現在の経済社会が抱える環境問題を解決へと導くため、環境と経営の基礎知識を理解することができる。 ◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	
④	情報化社会を理解し IT に関する総合的な知識を身につける。	
⑤	人間と社会の関わり方の理解に必要な専門的技術や知識を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	環境と経営に関する議論に、すすんで取り組む姿勢を持つことができる。 ○
	② 働きかけ力	環境と経営に関する知識を持って、目的を設定し行動することができる。 ○
	③ 実行力	環境と経営に関する議論で、目的を設定し行動することができる。 ○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	環境と経営に関する議論で、目的や課題を明らかにすることができる。 ◎
	② 計画力	
	③ 創造力	環境と経営に関する議論で、新しいアプローチを取ることができる。 ○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	環境と経営に関して、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 ○
	② 傾聴力	環境と経営に関して、相手の意見を丁寧に聴くことができる。 ○
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		15		15					30
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		25		25					50
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		10					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「環境と経営」に関する様々な話題に興味を持ち、自ら調べることができる。  「環境と経営」に関する様々な課題に関して、自ら行動することができる。  総合的な理解度が80%以上である。</p>					<p>「環境と経営」に関する様々な話題に興味を持つことができる。  「環境と経営」に関する様々な課題に関して、関心を持つことができる。  総合的な理解度が60～79%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス ① 本講義の進め方や受講上の注意事項 ② この授業の背景を解説する	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	ガイダンスに関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第2回 /	経営の基本 ① 経営とはなにか ② どのような会社があるか	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	企業経営に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第3回 /	環境問題の基本 ① 自然と生態系 ② 地球環境問題	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第4回 /	企業活動における環境問題 ① 製造業における環境問題 ② 価値連鎖	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第5回 /	SDGs ① SDGs 概説 ② 企業活動にとってのSDGs	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第6回 /	私達とSDGs ① 未来を変える ② 私達の行動を変える	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第7回 /	企業が行うべきこと ① 中小企業が行うべきこと ② 大企業が行うべきこと	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第8回 /	循環型社会 ① 3R ② プラスチック	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第9回 /	循環型社会 ① バイオマス ② 金属のリサイクル	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第10回 /	エネルギー ① 原子力発電、シェールオイル、など ② SDGs との関連	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第11回 /	温暖化と気候変動 ① 近年の動向 ② 起用変動問題の概要と科学的知見	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第12回 /	温暖化と気候変動 ① 国際的議論の潮流 ② 企業、経済活動と政策上の問題点	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第13回 /	働きがい ① 多様性 ② 働き方改革と経済成長	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第14回 /	未来を創造する2 ① 技術と企業 ② 自分と未来	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。オンデマンドによる遠隔授業	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB11S025S	総合教養科目 基本教養科目	わかる数学 A Lucid Mathematics	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	将来ビジネスや生活の場において必要とされる資質のうち、論理的なものの考え方を培うとともに、数学についての幅広い素養を身に付ける。
--------	--

キーワード	数と式、素数、因数、指数、対数、方程式、関数、円周率、幾何学、情報数学、経営数学	学修教育目標	数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。また、演習を反復することにより、論理的な思考力を高める。
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

数と式、方程式、関数等について基礎的な理解を深める。また、身近なできごとと数学との関連を意識した授業を展開し、実際に経営で使用する数学の基礎的な知識と技能を獲得するために、演習や実習を随時取り入れる。教科書とパワーポイントスライドの教材を配布して授業を行う。授業では単に説明を聞くだけでなく、課題解決のための方略や方法を思考し、課題を解くことを求める。筋道を立てたものの考え方に努めるとともに、計算をいとわず数的処理能力の向上を目指すこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

基礎統計学、情報処理概論、経営科学、ミクロ経済学、マクロ経済学、情報通信ネットワーク、ロボットシステム。  
授業で関数電卓（スマートホンなどに搭載）を使うので常時携帯しておくこと。専用の関数電卓があればなおよい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：楽しくわかる数学の基礎 著者名：星田 直彦 出版社：SBクリエイティブ株式会社	書名：数はふしぎ 著者名：今野 紀雄 出版社：SBクリエイティブ株式会社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。	とくに主体性、問題発見力、課題解決力の比重が大きい。また、柔軟な考え方や創造性も必要とされる。	◎
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	年金や保険など社会生活で数学が応用されていることを認識し、労働や生活で活用する数学的素養を身につける。	○
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。	経済の分析や予測、金融などに数学が応用されていることを認識するとともに、日常の経済活動の中にも数学が応用されていることを理解する。	○
④	情報化社会を理解しITに関する総合的な知識を身につける。	暗号技術や通信などの情報技術にも数学が応用されていることを認識するとともに、情報処理の基礎的な仕組みを理解する。	○
⑤	人間と社会の関わりの理解に必要な専門的技術や知識を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	成功体験を積むことで、次の課題へ取り組む力を身に付けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	何がどう問題なのかを明確にし、それをどのようにして解決するのかを考えることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	多くの場合、問題解決は一通りとは限らない。多様な方法を試みる力を身に付けることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		5				10	35
	技能に関する評価		10		5				10	25
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		10				10	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。身近なできごとと数学との関連を意識でき、実際に経営で使用する数学の基礎的な知識と技能を獲得する。</p>					<p>数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。実際に経営で使用する数学の概要について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	ガイダンス なぜ数学を学ぶのか － 社会と数学のかかわり － 数の発見、0の発見	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第2回 ／	数と式（1） 正数と負数、加算と乗算、項、交換法則	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第3回 ／	数と式（2） 逆数、減算と除算、倍数、約数	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第4回 ／	数と式（3） 単項式と多項式、次数と係数、等号と不等号、偶数と奇数	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第5回 ／	数と式（4） 因数と素数、素因数分解、エラトテネスの篩	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第6回 ／	数と式（5） 因数分解、平方根、平方根の性質、循環小数、有理数と無理数	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第7回 ／	方程式（1） 方程式とは、方程式の解、等式の性質、移項	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第8回 ／	方程式（2） 分数、解の吟味、連立方程式の解、等式の性質、加減法、代入法	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第9回 ／	方程式（3） 解とグラフ、2次方程式と解法、重根、実数と虚数	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第10回 ／	関数（1） 座標平面、比例の関係とグラフ、変域	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第11回 ／	関数（2） 反比例、双曲線、比例定数、1次関数	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第12回 ／	関数（3） 2次関数、放物線、変化の割合、微分概念	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第13回 ／	幾何学 ギリシャ幾何学、円周率、円の面積、ピタゴラスの定理、体積	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第14回 ／	情報と数学 2進法、情報量、アルゴリズム、最適化百分率、比例、変化率、利率、ローン返済	講義、演習 面接授業	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB41S026S	総合教養科目 基本教養科目	アセンブリ・アワー Assembly Hour	4単位	選 択	講 義	1年次・ 2年次	春学期・ 秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、将来、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、学修研究に対する具体的な取り組み方、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p>						
--------	--	--	--	--	--	--	--

キーワード	社会人力 スタディスキル アカデミック・ライティングのスキル コミュニケーション	学修教育目標	個人及び社会の一員としての在り方を理解し、学生生活を充実させ、将来の生き方と進路の適切な選択決定ができる。				
-------	---	--------	---	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>この演習では、本学の学生としての自覚を養い、大学生活に必要な基本的なマナーの理解を深める。                  また、大学で勉学を進めていく上で基礎となる、スタディスキルを身につける。具体的には、日頃のレポート課題や卒業研究に必要なアカデミック・ライティングのスキルを高める学習を進める。そして、グループワークを通して意見交換を行い、グループの意見をまとめ、他者にわかりやすく説明できる基礎的なプレゼンテーションの技能・マナーを身につける。</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>経営学部全ての講義に通ずる演習である。緊張感を持続させながら演習に取り組んでください。</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--

教 科 書				参考書・リザーブブック			
なし				書 名：大学生 学びのハンドブック [3 訂版] 著者名：世界思想社編集部(編集) 出版社：世界思想社編集部			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	建学の精神を理解し社会人基礎力の各要素を身につける。						
②	経済社会における多様な課題に対する基礎知識を身につける。	大学生活に必要な基本的なマナーを理解する。					◎
③	経営・経済の仕組みを理解し必要な専門知識を身につける。						
④	情報化社会を理解し IT に関する総合的な知識を身につける。						
⑤	人間と社会の関わり合いの理解に必要な専門的な技術や知識を身につける。						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。					◎
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。					○
	② 計画力	時間内にレポート課題を計画的に進めることができる。					◎
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章で解りやすく説明することができる。					○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴いて、理解することができる。					○
	③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
大学生生活に必要な基本的なマナーを理解し、身につけることができる。					他者と協力し共同作業ができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

**授業計画表**

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	復習 30
第2回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第3回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第4回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第5回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第6回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第7回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第8回 /	詳細は授業の中で連絡する。	講義（面接授業） デジユメ配布	・学修したテキストの復習	復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。